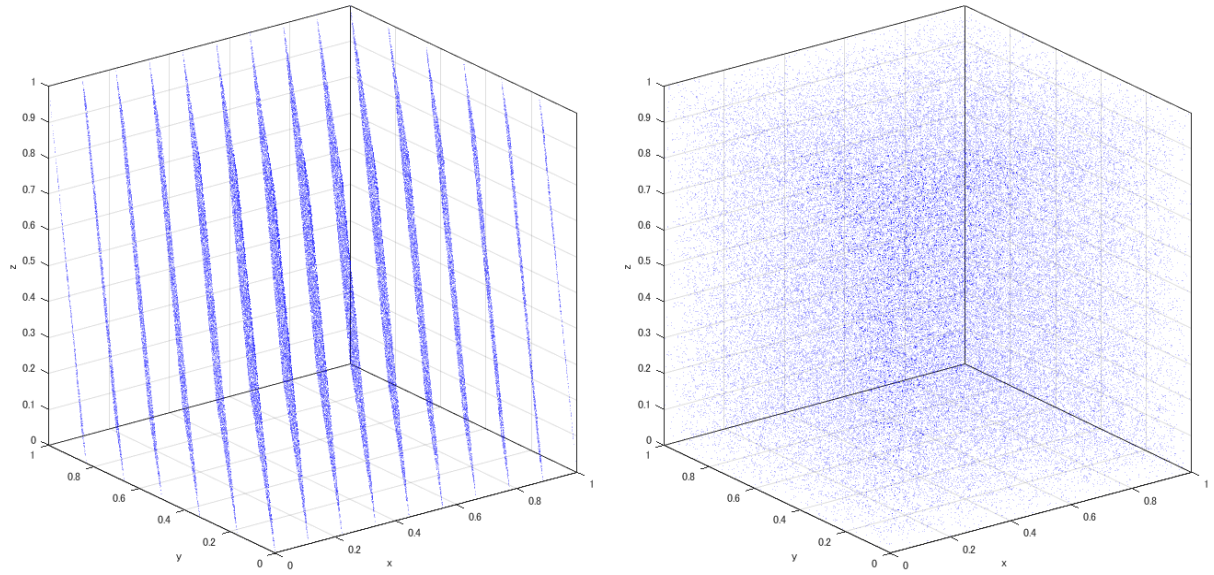
第158回 理学部コロキウム

理学部就職・進路指導委員会　共催

乱数の作り方 -失敗と試行錯誤の歴史-

理学部数学プログラム　原瀬　晋



日時：10月28日（水）16:30～17:40（紹介・質疑応答含む）
場所：B303講義室

乱数とはサイコロを繰り返し振って得られるようなでたらめな数列のことです。乱数は、自然科学や工学の様々な分野において、確率的な現象をシミュレーションによって解析する際に必要不可欠な道具となっています。実用上、主に漸化式を用いて、計算機上で確定的なアルゴリズムによって、あたかも乱数のように「見える」数列を生成して利用します。これを擬似乱数と言います。擬似乱数の研究は、電子計算機の誕生とほぼ同時期に始まり、まさに失敗と試行錯誤の連続でした。また、日本人の貢献も大きな分野です。この講演では分野外の研究者や学部学生も想定し、擬似乱数の歴史を振り返り、最近の動向をご紹介したいと思います。

問い合わせ先：長束俊治 (natsuka@bio.sc.niigata-u.ac.jp)